資料３

双葉町復興町民委員会　高齢者等福祉部会
ワークショップ　第１回　報告書

■日時　　平成 27 年 8 月 17 日（月）13 時 00 分から 16 時 00 分
■場所　　双葉町役場いわき事務所　2 階大会議室
■参加者　　別紙座席表のとおり
■テーマ　　「高齢者等の福祉について、現在の課題や解決策を考える」

■ワークショップ成果の発表

◇グループＡ

部会員：羽山、岩元、玉野、渡邉、永井、福岡

発表の要点：～ひとりひとりの本当の復興～

- 心のケアは場所だけでなく、活動プログラムが必要だ。
- 集まる場所やコミュニティを作っても、来ない人たちをどうするか。
- ひとりひとりの好きなことができる場所がほしい。
- 福祉施設にいつまでいられるのか不安である。
- 医療機関は送迎サービスや夜間診療、新しい受け入れ先情報がほしい。
- 福島県外にいる人の心のケアをフォローする。

【カードに書かれた意見】

《心のケア》

- 心のケアをする場所がない。入れモノだけ。畑。スポーツ。
- 心の中は見た目だけではわからない。言えない。
- 遠くにいる人をどう支援するか。
- 福島県の人が来てくれるとうれしい。

《健康支援》

- サポートセンターなどの集まる場所に来ない人をどうするか。
- 健康支援教室はその場だけ。どう継続するか。プリント配布など。
- ラジオ体操プラスα（そうじ）など、群れでやることが大切。
- 健康手帳の活用率。現状やっている人は少ない。

《施設》

- 福祉施設はどうなっているか。
- 今の施設にいられるかわからない不安。
- 国の方針が決まっていない。不安がつのる。
- 施設の職員不足。受け入れてくれない。

《医療》

- 総合病院がない。
- 開業医は多いが、分かれていると不便。
- 夜間に見てくれる病院がない。
- 通院のための送迎の問題。
- 病院の受け入れ先が変わった時の対応。
- 新しい病院の受け入れ先が見つからない。

《医療機関情報の整備》

- 情報がない。
- 情報の整備。

《コミュニティ》

- 今まで（双葉町で）やっていたことがなくなった。
- 生きがいがない。
- 好きなことができるスペースがない。
- 行くところがない。
- 双葉の人に会える場所がほしい。
- 行きたいと思う人も場所がない。
- 行ける人は大丈夫。その場所にいけない人はどうするか。
- 近所のつながりがない。
- コミュニティがない。
- 家族がいても日中ひとりの人のサポート。
- 良い方向に行く人と、行かない人のギャップが増している。
- 遠くに避難。心のケアの問題をフォローできない。
- 福島の人、身近な人に、近くに来てほしい「ひとりひとり」。

《個別の悩み》

- 復興するなら大きなプロジェクトをするべき。
- 復興を考える上では、若い人もとりいれるべき。
- 避難者と住民の軋轢。
- 避難先のサービスを受けられない。金銭面。

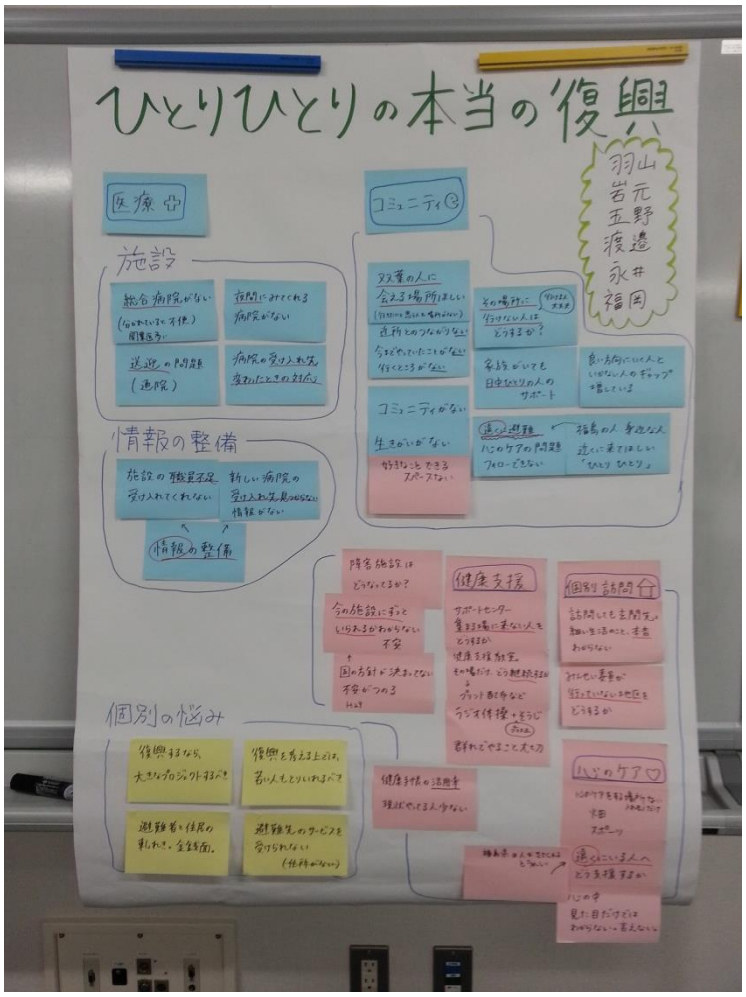
《カード記載以外の補足説明・感想等》

- 施設利用では、次の受け入れ先を探すのが難しい。紹介状がもらえない。
- 県外に避難している方のフォローができにくい。近くに来て欲しいがなかなかうまくいかない。
- 双葉町はめぐまれていたのを感じた。医療・福祉が一体化していた。

グループワークの様子

発表の様子

ワークショップの成果



◇グループＢ

部会員：田中（順）・細澤・髙野・田中（勝）・羽根田

発表の要点：～〇〇しすぎない見守り支援～

- 避難先の住民の心ない対応に、つらい思いをすることがある。
- 交流サロンやサポートセンターに出てこようとしない人がいる。
- 出てこない人は、個人の事情があるので、無理に一律にとらえるべきではない。
- 個人の生きがいや趣味を楽しめる場や機会を提供すれば参加するのではないか。
- 出てこない人には見守りや訪問看護で対応して、しっかり話を聞いてあげる。
- 避難先自治体の医療や福祉施設を利用することに気が引ける。
- 借上住宅では、医療機関の送迎サービスや、医療情報が不足している。

【カードに書かれた意見】

《話を聞いてくれる人》

- 行政、議会等の人が来て、しっかり話を聞いてくれたのはありがたかった。

《避難先の地域にとけこめない》

- 避難先の地域で、避難者として見られるのは嫌だ。
- 賠償金のことを避難先で言われるのはつらい。
- 医療機関の窓口で、医療費無料のことで心無い対応をされるのが悲しい。
- 避難している者同士で会っていると共感するものがあり、安心できる。
- 避難先の地域の組に参加して組費を支払うことで、地域と融和することができる。

《交流サロン》

- いつも同じ人しか参加しない。
- 参加しない人には、自宅を見守り巡回している。

《サポートセンター》

- なかなかうまくとけこめない。あと一歩ふみこめない。
- 郡山のせんだん広場は、いろんな活動ができて、人が集まりやすい。

《交流の場に出てこない人たち》

- 出不精な人は、個人的な事情もある。
- 男性の場合は、好きなことや、明確な目的があれば、集まりやすい。
- 個人ごとに、コミュニティの付き合い方をたくさん用意して、本人に選んでいただくことが大事だ。

《ディサービスの利用》

- 避難先の自治体にディサービスの受け入れをお願いして、うまくいっている。
- それでも、避難先自治体のディサービスを利用するのは気が引ける。
- ある程度双葉の人がまとまっているところは利用しやすい。
- いわき市だけでも、双葉の人が利用しやすいサービスがひとつにまとまった拠点があるとよい。

《介護サービスを利用しない人もいる》

- 施設を移動したときに、同じようなサービスを受けられるか不安だ。
- 介護認定は、これまで１か月だったが、最近は３か月かかる。
- 施設に入りたいが、みんなが入れるわけではない（定員、有料など）。
- 介護サービスを受けようとしない人がいる。
- 同居家族がカギを持っているので、ディサービスから帰宅しても家に入れないことがあり、その後参加しなくなった例がある。

《訪問看護》

- 訪問看護は、玄関であいさつするだけでなく、話を聞いてあげて、いっしょに泣いてあげることが大切だ。
- 双葉町の人に訪問してほしい。

《医療サービス》

- 南台は医療機関の送迎がある。
- 借上住宅の人は病院の送迎サービスがなく、医療機関の情報もない。
- 加須市では、市から医療施設一覧をいただいている。

《ひとりひとりに対応したサービス》

- ひとりひとりがある程度自立できる支援をすることが求められている。
- 選択可能な各種情報を提供して、自分で動けるように支援する。

《カード記載以外の補足説明・感想等》

- 自分で行きたい場所にバスを乗り継いでいくなど自分で自立する必要がある。
- 医療と介護が取り上げられたのが良かった。
- 出てくる人と出てこない人を把握することが大事。
- 釣りとかゴルフとかなら参加する人もいる。そういう人を増やすことが大事。
- 議論する場だけではなく、何か形にして欲しい。具現化して欲しい。

グループワークの様子

発表の様子

ワークショップの成果

■今回の部会のまとめ

〇各班の発表を受けて、コーディネーター金子氏が全体のまとめを行い、次のとおり説明した。

- まずは話を聞いてくれることが一番ありがたいことではないだろうか。
- 個人や家庭の事情でコミュニティに参加しない、参加できない人たちがいる。
- 個人の気持ちを尊重して、それに寄り添う多様な支援プログラムを用意することが求められている。
- 借上住宅に住む人は、医療機関の送迎サービスと、医療機関情報が不足している。
- 県外に住む人の心のケアとフォローアップが必要だ。
- 介護サービスについては、職員確保と受入能力向上のほか、利用しようとしない人の問題がある。
- 住民一人一人に対応した多様な参加機会とサービスを用意して、提供することで、住民が自ら選択して取り組み始めて、自立していくように見守りながら、支援することが重要だ。

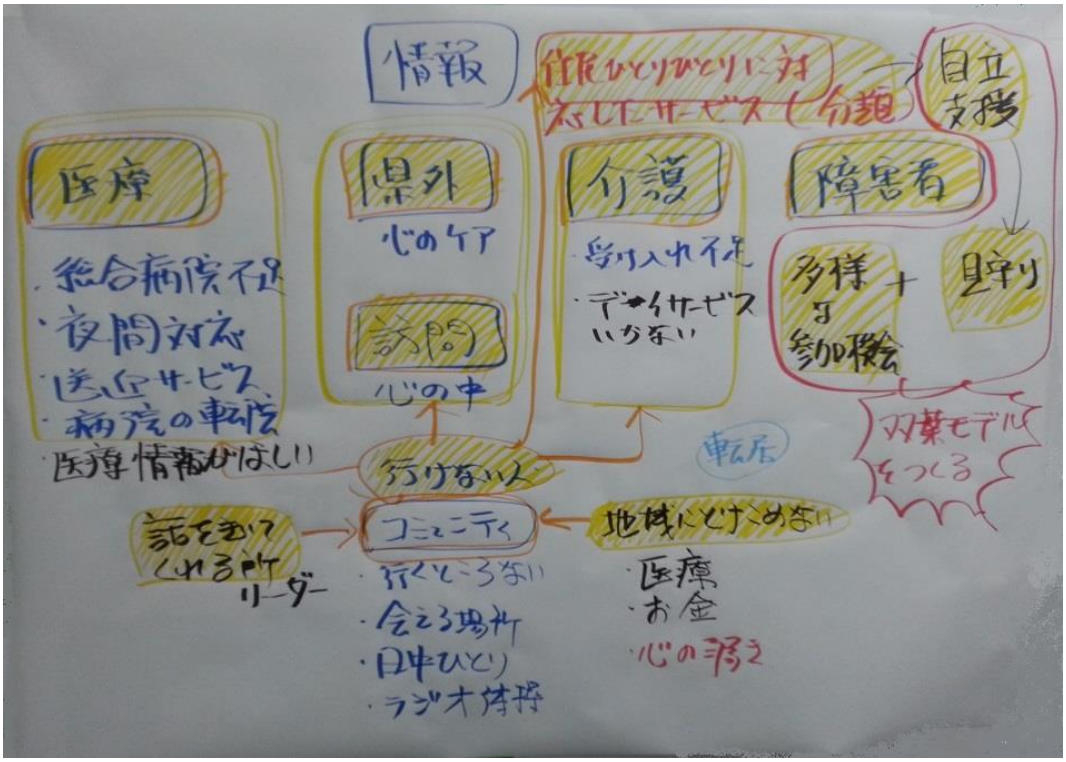
◇学識経験者　丹波先生からの講評

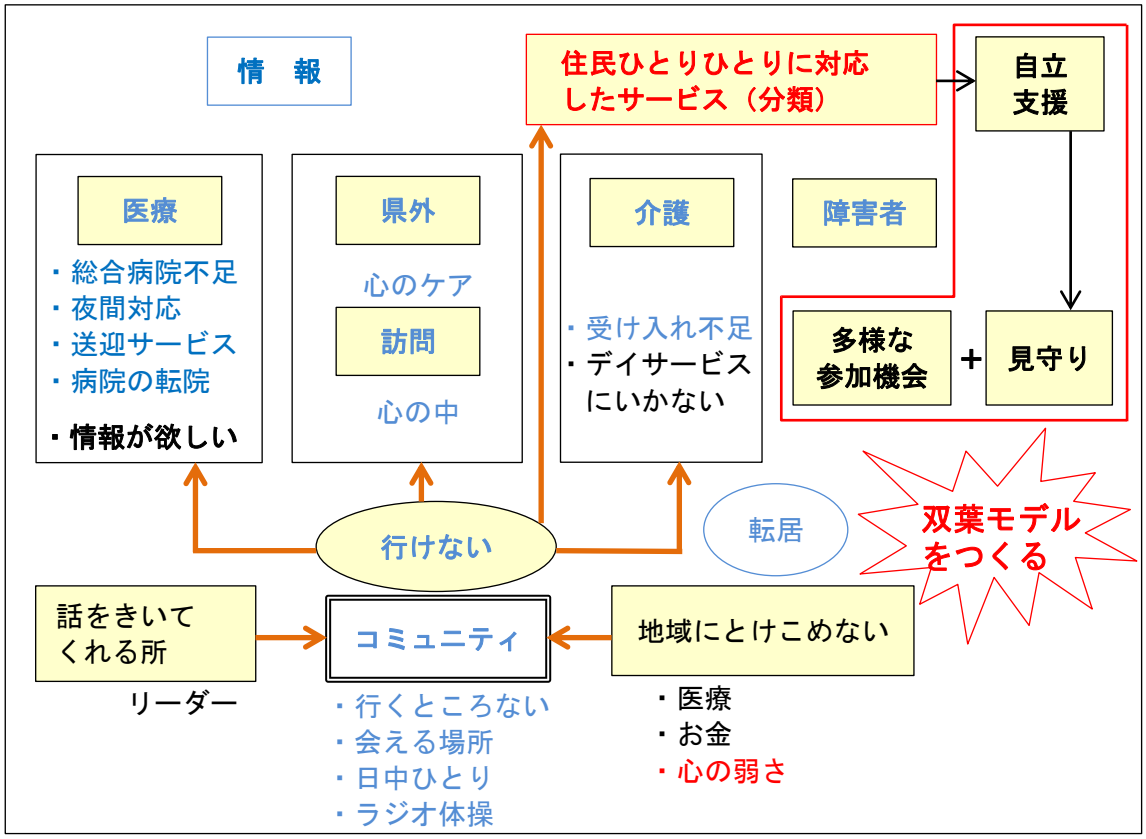
一回目から非常に具体的なワークショップであった。課題だけではなくこのようにしていきたいというものもでてきた。

今まで困っていた課題というのもあると思うが、これから出てくる課題というものもあると思う。

住宅の問題や介護保険料や国保税の問題が出てくる。現在は減免されているが、双葉町は全国でもトップレベルとなる介護保険料を負担するという問題もある。これから皆さんで知恵を絞っていただければと思う。

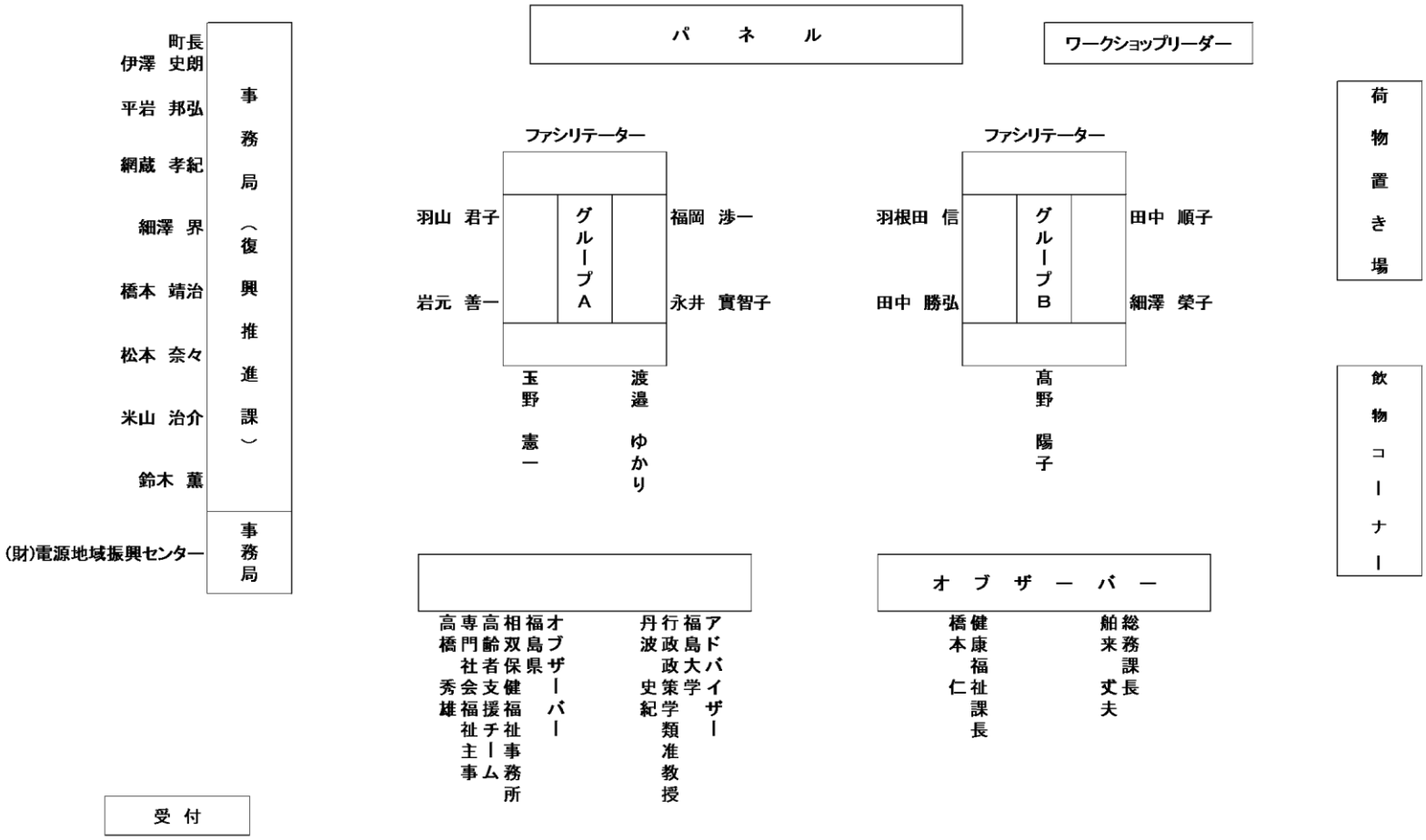
【ワークショップのまとめ】





第1回双葉町復興町民委員会　高齢者等福祉部会座席表

（ 敬 称 略 ）

1　日時　平成27年8月17日（月）13:00～16:00

2　場所　双葉町役場いわき事務所　2階大会議室